

## 沖縄の伝統文化大綱引きと観光の活性化への検討： 沖縄世界大綱引き大会の発展へ

又吉 斎\*

観光立県を謳う沖縄県の外国人観光客数は、このところ増加傾向にあり、また観光の満足度調査によると、旅行全体としては概ね満足しているという。一方、外国人観光客の活動内容については、観光地巡りやグルメ、ショッピングなどが中心を占めるなか、各種イベントや地域の文化活動については乏しい参加率という結果が明らかとなった。そこで、本稿において沖縄県民と外国人観光客とを結ぶ新たな異文化交流活動として沖縄の伝統ある大綱引きの世界大会開催を提案し、観光産業の視点から改めて地域文化の持つ魅力や文化価値というものをいかに観光価値として転化しうるかについて、現状の課題と共に報告した。同様に、伝統文化教育の視点から、沖縄世界大綱引き大会を通じた地域文化の見直しから伝統文化の継承と更なる発展へと繋ぐ地域振興策としての可能性について検討した。

<キーワード> 伝統文化, 観光情報, 文化財保護法, 無形民俗文化財, 新教育基本法

### 1. はじめに

観光立県を謳う沖縄県は、入域観光客数1千万人時代を見据える中、『沖縄県観光振興基本計画(第5次)』を平成24年5月31日に発表し、県の基幹産業としての観光産業振興策として、特に次の三領域の重要性を示している。即ち、①「自然—島の海・森・生物多様性」、②「人・環境—島の安全・安心・快適性」、そして③「文化—島の歴史・文化芸能」である。特に文化の領域については、更なる誘客を図る上で、重要な観光振興策の一つと位置づけている：

*琉球王朝時代から培われてきた伝統文化や芸能、伝統行事が各地域で脈々と受け継がれ、暮らしの中に息づいている沖縄は、誘客の観点から見て魅力ある風土や空気感を作り出している。そうした文化芸能や伝統的な生活文化、新しい生活文化の体験を観光価値として高め、それらの特色ある島の文化やその担い手である人の心がこもった取組を進め、観光の本来の目的のひとつである県民の誇りの醸成と次代に島の文化を引き継ぐ役割を果たしていく必要がある<sup>1</sup>。*

\* 沖縄女子短期大学

沖縄県の観光産業振興策に示された通り、地域の伝統や文化という魅力をいかに観光価値として高めていくかということが重要であり、と同時に、観光利用へ向けた具体的な計画の立案が求められている。そこで、沖縄の伝統行事として知られる大綱引きの国際大会を提案し、沖縄の綱引き文化を通じた観光振興の可能性について検討してみる。

### 2. 外国人観光客の誘致を図る異文化交流活動

地域の伝統や文化の観光利用が、沖縄県の観光産業振興における重要課題の一つであることについては先述した通りだが、外国人観光客の誘致についても検討する必要があるように思われる。沖縄県の報告<sup>2</sup>によると、外国人観光客数は年々増加傾向にあり、平成24年度は過去最高の38万人を記録している。入域観光客数1千万人を目指す沖

1 『沖縄県観光振興基本計画(第5次)：Ⅲ基本方向3—将来像実現の核となる3要素』〔2012：沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課発表〕

2 『平成24年度外国人観光客満足度調査報告書(1.空路調査)』〔2013：沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課発表〕

沖縄県としては、外国人観光客の更なる誘致を図り、目標達成に繋げたいところであろう。外国人観光客の動向や観光ニーズを把握すべく、ここで沖縄県が実施した『平成 24 年度外国人観光客満足度調査報告書』を参照しながら、外国人観光客誘致における課題点を探ってみる。

外国人観光客の旅行滞在中における主な活動内容としては、「観光地巡り」、「沖縄グルメ」、及び「ショッピング」が約 9 割を占める一方で、その満足度については「観光地巡り」が 49.2%と約 5 割に達しているものの、「沖縄グルメ」と「ショッピング」についてはそれぞれ 42.3%と 36.1%に留まっており、改善の余地が伺える。

更に調査報告から明らかになったこととしては、「イベント」や「工芸体験」といったいわゆる参加体験型活動への参加率は 1 割程度に留まっているものの、その満足度はというと「イベント」が 50.8%、「工芸体験」が 48.0%と、それぞれ一定の満足度を満たしていると言えるだろう。今後の沖縄観光の活性化を考えた場合、こうした参加体験型の活動を充実させることで更なる外国人観光客の誘致を図ることが期待できると提言できる。

一方、「観光施設」、「宿泊施設」、「食事」、「交通機関」といった全 9 項目からなる「項目別満足度」<sup>3</sup>の結果をみると、最も評価されたのは「おもてなし」(66.7%)で、「人がみな親切だった」や「接客態度が良く礼儀正しい」という意見が多数寄せられたという。逆に満足度が 12.4%と最も低かった項目は「外国語対応」で、外国人観光客を受け入れる側として、県民全体の外国語コミュニケーション能力の向上が現下の課題となっていることが浮き彫りとなった。換言すれば、外国語対応能力を向上させることで、外国人観光客の満足度を

押し上げることができるだけでなく、より円滑なコミュニケーションが実現すれば、外国人が最も高く評価する沖縄県民の「おもてなし」という付加価値を更に高めることが可能であるということを示唆していると言えよう。

以上のことを踏まえ、沖縄観光の活性化について提言するとすれば、外国人観光客が地域の人々との交流を通して伝統文化を体験・学習できるような、革新的なイベントの企画が必要なのではないかということである。そうした異文化交流体験は、外国人観光客を受け入れる県民にとって、個々の外国語対応能力を磨く実践の場として有益なものとなり、と同時に、県民にとっては外国人との異文化交流を通して一層「おもてなし」という観光価値を再認識するきっかけを得ることに繋がり、結果として観光振興への相乗効果が期待できると考えられる。その一例として、沖縄の大綱引きという伝統文化を発展させた、『沖縄世界大綱引き大会』の企画について解説する。

### 3. なぜ『沖縄世界大綱引き大会』なのか

ここで『沖縄世界大綱引き大会』を提案する意義について、沖縄の綱引き行事の特徴と伝統行事としての文化的重要性という視点から考察する。

国の定める文化財保護法<sup>4</sup>によれば、沖縄の綱引きは『記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財』に選定されており、その重要性が示されている。選定の主な理由として、沖縄の綱引きのほとんどが集落単位で数百年に渡り行われており、現行も 100 ヶ所以上を数えるということ、また綱の形態や引き方をめぐって南九州や朝鮮半島との関連性が指摘されるなど、内容的に極めて豊富であるとしている。

ところで沖縄を訪れる外国人観光客の国籍別構

<sup>3</sup> 「項目別満足度」の構成として「旅行全体」・「おもてなし」・「宿泊施設」・「食事」・「観光施設」・「交通機関」・「案内表記」・「金融・決済」・「外国語対応」の全 9 項目に分類されている。

<sup>4</sup> 昭和 25 年 5 月 30 日法律第 214 号に制定された文化財保護法は、文化財の保存・活用と、国民の文化的向上を目的とする日本の法律である。

成比の調べ<sup>5)</sup>によると、中国、台湾、香港、韓国が全体の9割以上を占めていることが明らかとなった。様々な点において稲作農耕文化との結びつきが深いとされる沖縄の綱引き行事は、同じく稲作が盛んな東南アジア諸国の人々にとっても文化的に類似する点が多分にあると推察されるため、綱引きが正にうってつけの異文化交流活動になり得ると考えられる。

沖縄の各地域に受け継がれてきた綱引き行事は、元来、稲の豊穰祈願、雨乞いや悪疫払い、あるいは地域住民の繁栄を祈願するといった、予祝や収穫儀礼としての要素が色濃く反映されており、例えば綱引き行事の一環として行われる拝所廻りや、雌雄2本の綱を繋いで引き合うという独特の綱引きの引き方にそれは象徴される<sup>6)</sup>。こうした沖縄のいわば精神文化を今に伝える綱引き行事は、単なる娯楽や競技としてのイベントではなく、世界に誇れる歴史ある伝統行事であり、外国人観光客を魅了する異文化交流としてのイベントに相応しい、沖縄の民俗文化である。

更に、伝統や文化の重要性は、平成18年に改正された新教育基本法「教育の目標」〔第2条5項〕において同じく示されている：

*伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛すると共に、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。*

このように教育的視点に立脚した地域文化の見直しは、それらの文化価値を一層高めていくであろうと期待されるなか、『沖縄世界大綱引き大会』の開催の意義を改めて考えてみると、それは外国人観光客の異文化理解を促す貴重な機会になるだけでなく、延いては我々の自国文化に対する更なる

<sup>5)</sup> 『平成24年度外国人観光客満足度調査報告書(1.空路調査)』〔2013：沖縄県文化観光スポーツ部観光政策課発表〕

<sup>6)</sup> 平敷令治『沖縄の祭祀と信仰』〔1990：p.5〕

理解へと発展しうるものである。この点において、『沖縄世界大綱引き大会』は、観光振興としての意義だけでなく、沖縄の伝統と文化の継承・発展に寄与する可能性も有していると言えよう。

以上の点を踏まえ、次章において異文化交流活動としての『沖縄世界大綱引き大会』の趣旨と実施要項を纏める。

#### 4. 『沖縄世界大綱引き大会』の実施要項

##### (1) 大会趣旨：

沖縄県民が主体となって外国人観光客と協働して綱作りに携わり、積極的にコミュニケーションを図りながら、相互の親睦と発展を祈念する意義のもと、力を合わせ競う綱引き行事を楽しむことで、相互理解を深化する機会を創出することを目的とし、沖縄観光振興と地域文化の活性化を目指すものとする。

##### (2) 実施主体：

イベント実行委員会

※ 綱引き行事が現存する県内市町村の綱引き実行委員長、各教育委員会メンバー、観光関連団体代表者、及び民俗学研究者等により構成

##### (3) 参加対象：

外国人観光客、及び綱引き行事や異文化交流に関心のある、県内外全ての人を参加対象とする。

##### (4) イベント開催日：

沖縄の綱引き行事が実施される旧暦の折目としては、①正月、②六月十五日（六月ウマチー）前後、③六月二十五日（六月カシチー）前後、④七月十五日（盆の送りの日）前後、⑤八月十日（柴差し）前後、⑥八月十五日（十五夜）前後とされている<sup>7)</sup>。稲作儀礼としての綱引き行事の意味合いを今に伝えるという意味で、イベントの開催日は次の通り実施を計画する：

<sup>7)</sup> 平敷令治『沖縄の祭祀と信仰』〔1990：pp.75-6〕

- 第一回大会：2月の第1日曜日（旧正月）
- 第二回大会：6月第1日曜日（六月ウマチー<sup>8</sup>）
- 第三回大会：6月第3日曜日（六月カシチー<sup>9</sup>）
- 第四回大会：7月第1日曜日（盆送り<sup>10</sup>）
- 第五回大会：8月第1日曜日（柴差し<sup>11</sup>）
- 第六回大会：8月第3日曜日（十五夜）

※ 但し、開催時期については地域の綱引き行事と重なる可能性もあるため、その場合はその都度、開催日時を変更・調整するものとする。

#### (5) イベント実施場所：

沖縄県島尻郡与那原町内広場（東浜地区）

※ 選定の理由としては、沖縄のいわゆる三大綱引きの一つに数えられる与那原大綱曳きで知られる同町が、綱引きを通してこれまでに県内の金武町や北谷町をはじめ、県外では秋田や大阪、そして国外では韓国との文化交流を既に実現していることから、地域文化を通じた国際交流を醸成する風土が存在している与那原町が当該イベントを開催するに相応しいと思われる。

#### (6) イベント実施内容：

- 綱作り（藁鋤・綱打ち・仕上げ）
- 祈願祭（安全・友好・平和・発展）
- 道ジュネー（踊り・鉦鼓・ボラ・旗頭）
- 綱引き
- 沖縄世界大綱引きフォーラム（国際学術交流）

- お守り作り体験（稲藁を使用）

- 大綱引きフォトコンテスト

※ 沖縄の一般的な綱引き行事の流れを踏襲するイベントとして、本大会では綱作りの作業から祈願儀礼、示威行為である道ジュネー、そして本番の大綱引きまで、外国人観光客と地域住民とが協働して異文化交流活動を行えるプログラムを企画する。その他、付帯催しとして「沖縄世界大綱引きフォーラム」と題した国際学術交流や、綱作りに必要とされる縄結びの技法を用いたお守り作りの講習、そして大会を盛り立てるフォトコンテスト等を企画することで、国籍や年齢、性別を問わず、多方面において異文化交流の促進を図りたい。

#### 5. 検討課題：

本稿において、地域住民と外国人観光客とを結ぶ国際交流として『沖縄世界大綱引き大会』を提案し、観光振興と地域の伝統文化の発展の可能性について述べてきたが、大会実施に向けた課題としては、外国人観光客の満足度調査の結果に示されるように、ホスト側としての外国語対応能力の向上が大会の成功を左右するであろうと推察される。これについては、先ず沖縄の綱引き文化の理解を図るための資料を作成し、次いでその資料を基に外国人観光客に分かりやすく説明できるよう、多言語版テキストの作成にも取り組みたいと思う。

#### 【主要参考文献】

- (1) 沖縄県教育委員会（編）『沖縄県文化財調査報告書 143：沖縄の綱引き習俗調査報告書』〔2004：沖縄県教育委員会〕
- (2) 平敷令治『沖縄の祭祀と信仰』〔1990：第一書房〕
- (3) 文化庁ホームページ：国指定文化財等データベース
- (4) 宜保榮治郎『沖縄民俗研究第6号：韓国の綱引き一金羅北道扶安邑内翡里の場合』〔1986：沖縄民俗研究会〕

<sup>8</sup>旧暦6月15日に行われる稲大祭の意。

平敷令治『沖縄の祭祀と信仰』〔1990：p.170〕

<sup>9</sup>旧暦6月25日に行われる年浴の意。

平敷令治『沖縄の祭祀と信仰』〔1990：p.171〕

<sup>10</sup>旧暦7月15日に行われる盂蘭盆(うらぼん)の最後の日に、精霊(しょうりょう)を送り返し、供え物を辻・川・海などに捨てたり流したりする行事の意。デジタル大辞泉

<sup>11</sup> 沖縄では一般に旧暦の8月10日を「柴差し」といい、すすき三本と桑の小枝を束にしたシバと称するものをさして魔除けとした。

新垣智子 論文『沖縄の柴差行事：その変遷に関する一考察』〔1992：pp.34-5〕